

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄				全体
配慮項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>		-	<b>3.0</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	-	-	<b>3.0</b>
<b>1.1 室内騒音レベル</b>	-	<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-	
<b>1.2 遮音</b>	-	<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	-	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-	
2 界壁遮音性能	-	<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	<b>1.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
<b>1.3 吸音</b>	-	<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2 溫熱環境</b>		<b>3.0</b>	0.35	-	-	<b>3.0</b>
<b>2.1 室温制御</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 室温	-	<b>3.0</b>	0.38	<b>3.0</b>	-	
2 外皮性能	-	<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-	
3 ゾーン別制御性	-	<b>3.0</b>	0.38	-	-	
<b>2.2 湿度制御</b>	-	<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2.3 空調方式</b>	-	<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 昼光利用</b>	-	<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 昼光率	-	<b>3.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	-	
2 方位別開口	-	-	-	<b>3.0</b>	-	
3 昼光利用設備	-	<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-	
<b>3.2 グレア対策</b>	-	-	-	-	-	
1 昼光制御	-	<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
<b>3.3 照度</b>	-	<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>3.4 照明制御</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	-	
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	-	-	<b>3.0</b>
<b>4.1 発生源対策</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	-	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-	
<b>4.2 換気</b>	-	<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 換気量	-	<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
2 自然換気性能	-	<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
3 取り入れ外気への配慮	-	<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
<b>4.3 運用管理</b>	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>	-	<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性	-	<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
2 高度情報通信設備対応	-	<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
3 パリアフリー計画	-	<b>3.0</b>	1.00	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>	-	<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	-	<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
2 リフレッシュスペース	-	<b>3.0</b>	-	-	-	
3 内装計画	-	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-	
<b>1.3 維持管理</b>	-	<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	<b>3.0</b>	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>	-	<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 車体材料の耐用年数	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-	<b>3.0</b>	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	<b>3.0</b>	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-	
<b>2.4 信頼性</b>	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-	
3 電気設備	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	-	<b>3.0</b>	0.20	-	-	

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり		3.0	0.30	-	-	3.0
	1 階高のゆとり	-	3.0	0.30	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	-	3.0	1.00	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり	-	3.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
	1 生物環境の保全と創出	-	-	0.30	-	-	3.0
	2 まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.30	-	-	3.0
	3 地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.61		5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	-		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI=0.61、LED照明設備を採用。		3.4	0.50	-	-	3.4
4 効率的運用	集合住宅以外の評価		3.4	1.00	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	1.00	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		3.0	0.50	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	-	-	-	
	3.0	0.20	-	-	-	-	3.0
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雜排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減	2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	壁・天井共LGS下地を採用し、壁と仕上材が容易に分別可能となっている。OAフロアも採用している。	5.0	0.20	-	-	
	3.0	0.60	-	-	-	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		2.6	0.20	-	-	2.6
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.30	-	-	
	1 消火剤	-	2.5	0.70	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	-	-	-	-	
	3 冷媒	-	2.0	0.50	-	-	
	3.0	0.50	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率=69%		4.2	0.33	-	-	4.2
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 污水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3.0	0.33	-	-	-	-	3.0
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	0.33	-	-	
	2 振動	-	3.0	0.33	-	-	
	3 悪臭	-	3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	3.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	○	○	-	-	-	○	-	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0		-	○	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	1.0	○	-	-	-	-	○	-						
2.4.3 電気設備	2.0	2.0	-	-	○	-	○	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		-	○	-	○	-	-							
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	7.0		-	-	2.0	1.0	-	1.0	1.0	-	1.0	1.0	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	8.0		2.0	-	1.0	1.0	-	2.0	-	2.0	-				
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雜排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	2.0		-	2.0	-										
2.3 軀体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	4.0		-	-	-	-	1.0	-	-	1.0	1.0	1.0	1.0		
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		-	1.0	-	1.0	-	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	-	-		1.0	-						
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		-	2.0											

**主な指標****Q1 室内環境**

## 2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.5	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m <sup>2</sup> K)	4.0	屋根 2.0	外壁 2.0
住戸部分	窓システムU値 -	外皮UA値 -	η AC -

## 3.1.1 昼光率

昼光率	1.5%
自然換気有効開口面積率	3.3%

## 4.2.2 自然換気性能

## Q2 サービス性能

## 1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	6.0m <sup>2</sup> /人	病床	8.0m <sup>2</sup> /床	シングル	15.0m <sup>2</sup> ツイン	22.0m <sup>2</sup>
コンセント容量	30.0 VA/m <sup>2</sup>					

## 1.1.2 高度情報通信設備対応

天井高	2.5 m
リフレッシュスペース	0.5%

## 1.2.1 広さ感・景観

想定耐用年数	25 年
想定必要間隔	20 年

## 1.2.2 リフレッシュスペース

想定必要間隔	0 年
想定必要間隔	0 年

## 2.2.1 軀体材料の耐用年数

階高	3.2 m
壁長さ比率	20.0%

## 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

床荷重	4000 N/m <sup>2</sup>
想定耐用年数	25 年

## 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔	0 年
想定必要間隔	0 年

## 2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

階高	3.2 m
壁長さ比率	20.0%

## 3.1.1 階高のゆとり

床荷重	4000 N/m <sup>2</sup>
想定耐用年数	25 年

## 3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率	20.0%
床荷重	4000 N/m <sup>2</sup>

## 3.2 荷重のゆとり

床荷重	4000 N/m <sup>2</sup>
想定耐用年数	25 年

## Q3 室外環境(敷地内)

## 1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数	34%	建物緑化指数	5%
空地率	20%	水平投影面積率	6%

## 3.2 敷地内温熱環境の向上

地表面対策面積率	8%	舗装面積率	4%
空地率	20%	水平投影面積率	6%

## LR1 エネルギー

## 1 建物外皮の熱負荷抑制

<